



“ Let's Enjoy Homestay! ”

～ 仮想ホームステイで楽しむ選択授業～

岡田 海保（岐阜県瑞浪市立瑞浪中学校）

はじめに

本校の位置する瑞浪市では3人のALTがあり、今年度、本校は45日間の訪問が予定されている。私が教員になった十数年前には、ALTの先生に“Hello!” と話しかけられ恥ずかしそうにうつむいてしまう姿がよく見られた。しかし今、そんな姿はすっかりなくなり、すれ違いざまにも“Hi, Cindy! How are you?” とどンドン自分から話しかけていく生徒たちがたくさんいる。本コースは、必修教科の授業だけでは物足らず、「もっと話せるようになりたい!」「もっと自由に英文を書けるようになりたい!」と願う彼らのためのコースである。学習指導要領に示された選択教科の内容のうちの「発展的な学習」に位置づけられる。

詳しくは後で述べるが、生徒たちは各自が好きな国と都市を選び、そこに住む仮想のホストファミリーを設定する。家族構成、一人ひとりの名前、年齢、職業、趣味、性格、ペット等、すべては自由。その上で、1年間にわたり様々な活動を展開していく。

指導にあたって

ねらいは次の2点である。

1. ビデオレター、モデルフレームを用いたダイアログ作り等を通して話す力をつける。
2. 手紙、日記、パンフレット制作等を通して、書く力をつける。

1年を通して自分で設定した仮想のホストファミリーを軸とすることでストーリー性をもたせ、生徒たちが自由な想像力を発揮して、楽しみながら「話す・書く」の表現力を伸ばすことを願った。3年生での実践であり、昨年度は22名で行ったものである。

年間の活動の流れ

1 オリエンテーション（2H）

- ・1年間の見通しをもつ。
- ・訪れる国・都市・ホストファミリーを設定し、他の仲間を紹介する。

2 ホストファミリーに送るビデオレター作り（4H）

- ・自己紹介のために送るビデオレターのスクリプトをモデル文を参考にして書く。
- ・実際に話して録画してみる。

3 ホストファミリーからの電話のスキット（1H）

- ・「ビデオレターを見たホストファミリーからの電話」の設定で電話のスキットを作る。
- ・ホストファミリーからの質問に即興で答えながら、ペアで話してみる。

4 機内・入国審査・初対面のダイアログ（3H）

- ・客室乗務員や入国審査の係官とのスキットを作り、ペアで話してみる。
- ・ホストファミリーとの初対面をし、日本からのお土産を渡す場面のスキットを作って演じる。

5 日本食作りのダイアログとレシピ（4H）

- ・日本食のレシピを英語で書く。
- ・ホストファミリーと一緒に日本食を料理する場面のスキットを作り、ペアで話してみる。

6 英文日記（2H）

- ・ある週末の1日や、祝日（ハロウィン、イースター等）の過ごし方などを取り入れて英語で日記を書く。

7 買い物のダイアログ（1H）

- ・家族へのお土産をかう場面のスキットを作り、ペアで話してみる。

8 観光名所のパンフレット作り（10H）

- ・ホストファミリーの住む都市のオリジナルパン

フレットを作る。

・インターネットや図書館で集めた情報を英文にし、写真等も添付して楽しいパンフレットを作る。

9 日本文化についてのクイズ作り (2H)

・ホストファミリーに日本的なものを紹介するためのクイズを作る。
・ペアでクイズを出し合う。

10 搭乗カウンターでの別れのダイアログ (2H)

・別れの場面のスキットを作り演じてみる。
・互いにプレゼントを贈ったり、次に会う約束を交わしたりする。

11 ホストファミリーに送るビデオレター作り (4H)

・日本に戻り、お礼のビデオレターを作る。

12 1年間のまとめ (1H)

実践紹介〔1〕

ホストファミリーに送るビデオレター作り

【活動内容】スピーチ形式

【指導事項】自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話す 話すこと(I)

【指導の流れ】

1. モデルフレームを参考にして自己紹介ビデオの SCRIPT を作る。(2H)
2. ジェスチャーや物を見せるなど、相手に分かりやすい工夫をしながら話す練習をする。(1H)
3. 実際に録画をしてしてみる。(1H)

このコースを選択して最初の活動である。どの子も意欲満々でスタートしてきてはいるが、生徒個々の実態が分からないこともあり、全員が確実に取り組めることをまず第一に配慮した。「これならこれから1年間楽しく力をつけていけそうだ!」という自信と期待を全員に持たせたいという願いからである。

そこで、基本的にはモデルスキットのブランクを埋める形でオリジナルのスキットを作らせ、さらに意欲のある生徒には質問に応じる形で様々な表現を教え、内容を膨らませるようにした。

実際の生徒作品を紹介する。下線の部分がブラ

ンクを埋めた所であり、イタリックはさらにその生徒が加えた部分である。

Hello! My name is Yoshikawa Emi. I'm 14 years old.

First of all, I'd like to talk about myself. My hobby is softball. I've played it for 5 years. *Look! This is my glove. It's very old, but it's my favorite.* Also, I like music. Especially I love pop music. *I'm going to sing Japanese songs for you!*

Next, I'm going to introduce my family. This is my father. He works at a ceramic company. His hobby is playing golf. He's very kind, but sometimes very strict! This is my mother. She's a housewife. Her hobby is gardening. She likes growing flowers. She likes cooking too. She's good at cooking Chinese food. *They are very delicious. I sometimes help her.* This is my sister, Yumi. *She's 5 years older than I.* She likes movies. She likes Ben Afflek the best. *She always says, "He's very cool!!!" But I don't like him so much.*

That's all for today. I'm looking forward to seeing you. I'm so excited! *Now I study English very hard.* See you soon!

必修の授業では紹介するにとどめるような、次のようなやや難しい語句や口語的な表現も積極的に使わせるようにした。

"Especially ~"

"Also..."

"I'm looking forward to ~" 等。



そして録画する場面では、趣味に関わる物を実際に見せたり、ジェスチャーを用いたりしながら楽しいビデオレターを完成することができた。

実践紹介〔2〕

ホストファミリーからの電話のスキット

【活動内容】スキット形式

【指導事項】つなぎ言葉をを用いるなどいろいろな工夫をして話が続くように話す 話すこと(I)

【指導の流れ】

1. モデルスキットを参考にしてオリジナルスキットを作る。
2. 日本からの留学生を迎えるホストファミリーが、その子について何を心配すると思うかを想像し、スキットの中にそれに関する質問を加える。
3. ペアで相手を替えながら練習する。

学習指導要領には「特有の表現がよく使われる場面」について特に習熟させることが述べられており「電話での応答」はその中でも日常生活上、最もそれにあてはまるものである。必修の授業でも各学年において繰り返し学習する。この選択授業では、各自が自分で設定したホストファミリーの状況を念頭に想像力を膨らませつつ、必修授業よりさらに豊かなコミュニケーション活動が展開されることを意図した。

また、あらかじめ書いたスキットをスクリプトを見ながら演じるだけでなく「ホストファミリーからの質問」を含めることで対話に即興性をもたせるようにし、現実の対話に少しでも近づけるようにした。

Japanese Student(以下 JS): Hello. This is Keiko speaking.

Host Mother(以下 HM): Oh! Hi, Keiko! This is Maria Smith speaking!

JS: Oh, Ms Smith! How are you?

HM: Great! What time is it there?

JS: Well ... it's about nine in the evening.

HM: What are you doing now?

JS: I'm listening to music.

HM: Good. Well ... I have some questions, Keiko.

JS: O.K. What are they?

HM: First, do you like dogs?

JS: Yeah! I like dogs very much.

HM: Great. We have a big dog.

Js: Really? What's its name?

HM: It's Peter.

JS: I see.

HM: Second, do you like camping? ...

自分で設定したホストファミリーを思い浮かべながら生徒たちは次のような質問を投げかけ合った。

"We live near the sea. Do you enjoy surfing?"

"We are vegetarians. Do you dislike vegete

"We have a rabbit, a bird, and a horse. Do you like animals?"

"My son is a member of a rock band. Do you like rock music?"

"We like Japanese food. Can you cook *tempura*?"...

これらの質問に対し、なかなか一度で聞き取れず "Pardon?" "Slowly, please!" などの表現を使って問い返しながらも一生懸命に答える生徒の姿があちこちで見られた。また、実際にやりとりができる教材用の電話を使ったので（呼び出し音も鳴る！）より一層生き生きと活動を行うことができた。ときには "What?... What? ... I'm sorry! I can't hear you!" などと笑いをとる生徒もあり、終始楽しい雰囲気であった。

一方で「先生、電話って、向き合って話すより、声だけで聞きとるから難しいね。」と、まさに私たちが日頃ALTと電話でやりとりする際に感じるのと同じことをつぶやく生徒もいた。「そうだよ。向き合って話すときはいかにジェスチャーとか表情とかで伝え合ってるかってことが分かるよね。」そんな話にも実感をもって頷く彼らだった。



実践紹介〔3〕

観光名所のパンフレット作り

【活動内容】説明文を書く

【指導事項】伝言や手紙などで、読み手に自分の意向などが正しく伝わるように書く 書くこと(I)

【指導の流れ】

1. 自分の訪れる都市の観光名所について図書館やインターネットで調べる。(2H)
2. 調べた内容の中から、モデル文を参考にして内容の構成を考える。(2H)
3. 英文に書きまとめる。(3H)
4. レイアウトを考え、写真なども取り入れて画用紙に清書する。(2H)
5. 発表会を行い、仲間と作品を交流する。(1H)

間の中でも最も多くの時間を費やした活動であり、その成果は3学期の文化展で展示発表をした。

活動の最初に旅行社に置いてある旅行パンフレットを見せ「これの英語版を作るよ。」と言うと、生徒たちは「え～、そんなことできるの？」と半信半疑であった。その上で次のようなモデル文を見せた。

"This is Opera House in Sydney. It was built in 1965. It looks like a seashell. Inside it there are many shops and theaters. At the theaters we can enjoy music concerts or dramas. At the shops, we can buy a lot of lovely souvenirs; postcards, paperweights, or stationeries. Opera House is a very unique and beautiful building."

自分のホストファミリーの住む都市の観光名所を3～4選び、いつできたか、どんな特徴があるか、その中で何が行われるか、観光客は何が楽しめるかなどの観点について情報を収集していった。インターネットの情報は膨大である。自由に調べさせ、それを後で日本語に訳す...となると中学生の英語力ではお手上げになってしまう。実際に何度も犯した失敗例でもある。そこで、どんな英語の表現を使って、何について書いていくのかというイメージを持たせ、あくまでもそれに沿って調べていくようにさせた。例えばモデル文の中の "It looks like ~ ." "It was built in ~ ." "It's famous for ~ ." "Inside it we can enjoy ~ ." などの表現を軸とし、そこに当てはまる情報を調べて文を作っていけば、誰もが容易に紹介文を書くことができる。

実際に作り始めると、クイズを取り入れて書いてみたり、おすすめスポットを小コラムにしたり...と予想を超えた数々の工夫が飛び出し、彼らのアイデアの豊富さに驚かされた。

必修教科の授業でも有名な建物などを1つ取り上げてその説明文を書く活動を行うことがあるが、それを作品にまで創り上げることはなかなか時間



《生徒作品 "Guide of Washington D.C."》

の都合でできない。こうした活動に思い切った時間を割くことができるのも選択授業の良さである。できあがった作品を満足そうに発表する生徒たちの顔に、こちら喜びを感じた活動であった。

おわりに

以上、主に平成14年度の実践をもとに述べてきた。今年はその反省をもとに2年目の実践を行っている。「仮想ホームステイ」という設定ではあるが、1年間を通して取り組んでいるうちになぜかその仮想のホストファミリーに愛着を感じるようになる生徒もいた。

「軽い気持ちで考えたホストファミリーだったけど、だんだん本当にいるみたいなのができて、別れの場面のスキットを作ったときには何だかすごく真剣に『これでお別れだ～！』って気持ちになってしまった。」

最後の授業での、ある生徒の感想である。

世間の英語教育熱の高まりとともに、すでに英検5級を取得して中学校へ入ってくる生徒も年々増えており、「英語を話せるようになりたい!」という生徒たちの願いはますます高まっている。そんな彼らの興味・関心を受け止め、さらに工夫した選択授業の在り方を探っていきたい。